慢性肝炎とは

代謝性、中毒、自己免疫性、薬剤の影響など様々な原因で肝炎が発症し、6か月以上炎症が持続しているものを指します。
活動期と非活動期があり、ゆっくりと進行します。最終的に肝硬変に移行し、肝性脳症になることがあります。

※肝硬変
…肝臓の細胞が壊れていき、肝臓が小さく硬くなった状態。肝機能が著しく低下するとともに、肝臓に流れ込む大きな静脈である門脈が、硬くなった肝臓に血液を送ろうとするので、門脈にかかる圧力が上がります（門脈圧亢進）。これにより体に浮腫が出たり腹水が溜まったりします。

※肝性脳症
…肝臓が持つアンモニアの解毒機能が低下します。アンモニアは強い毒性があり、それが脳や体に回るとけいれんや意識障害を引き起こします。緊急性が高く、危険な状態です。

≪症状≫

- 食欲低下
- 黄疸
- 腹水
- 嘔吐
- 凝固異常（出血が止まりにくい）

≪診断≫

エコー検査で肝臓の大きさや血管の状態を調べたり、血液検査で肝臓に関わる数値を確認します。
肝機能が落ちていると血糖値、アルブミン、コレステロールが低下し、アンモニアが上昇します。
食前・食後のアンモニアやTBA（総胆汁酸）を測定したり外注検査でアミノ酸分析を調べることがあります。

≪治療≫

◆内科治療

ステロイド、利胆剤などを使用するほか、対症療法として吐き気止めや胃腸薬を使用します。

◆食事療法

症状や肝性脳症の有無で異なる。
高エネルギーで高消化性の食事が選択されます。
高アンモニア血症がある場合はタンパク質を制限したフードが必要です。
しかし単純にタンパク質を制限すると筋肉量が低下したり全身状態の悪化要因となるため、肝臓外で利用できるタンパク質（分岐鎖アミノ酸＝BCAA）製剤を併用します。
腹水がある場合はナトリウム（塩分）を制限することもあります。

◆原因に対しての治療

検査を行っても原因までは特定できない特発性が多いですが、銅蓄積や感染症など原因が特定できた場合はそれぞれの原因に対しての治療が行われます。

オノデラ動物病院